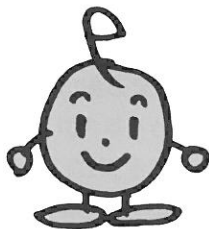


こどもエコクラブを 生活科・総合的な学習の時間のスパイスに

公益財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局長
川村 研治

地球環境問題が大きくクローズアップされ、多くの人が地球や身近な環境に関心を強めた1990年代後半、「こどもエコクラブ」がスタートしました。それから約20年、こどもエコクラブ全国事務局は、子どもたちによる環境学習・環境活動をサポートし続けてきました。ここでは、小学校の生活科や総合的な学習の時間でこどもエコクラブを活用する方法をご紹介します。

●「こどもエコクラブ」とは？



こどもエコクラブは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。環境学習・環境活動に取り組む子ども1人以上、子どもの活動を支える大人（サポーター）が1人以上いれば、いつでも誰でも登録できます。事業がスタートした平成7年から延べ200万人が登録し、平成27年度は全国で2,127クラブ、約12万人が登録しましたが、学校のクラブが最も多く全体の4分の1にあたる591クラブでした（図1）。年齢別内訳は、小学校低学年と高学年がそれぞれ3分の1強、幼児が5分の1です（図2）。

●3段階のサポート

こどもエコクラブ全国事務局は、子どもの環境学習・環境活動を「きっかけづくり」、「活性化」、「交流・ステップアップ」の3段階でサポートします。

登録したクラブに

活動意欲を継続する工夫

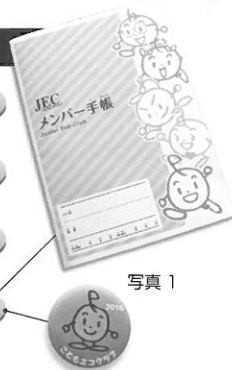
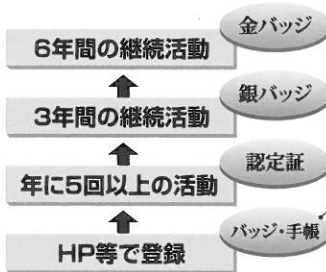


写真1

は、環境学習・環境活動に取り組むきっかけとなるツール、プログラム、情報を提供します。登録は簡単です。ウェブサイトに必要な事項を書き込むだけ。ウェブサイトから登録用紙をダウンロードして、こどもエコクラブ全国事務局に送ることもできます。

登録すると「メンバーズパスジ」と「メンバー手帳」（写真1）をお送りします。手帳はA5判、環境学習・環境活動のヒントのページや活動を記録するページがあります。また、教員の方には、クラブを活用するための「こどもエコクラブ応援マニュアル」や指導のポイントやワークシートがセットになったプログラムもあります。このような教材やツールが無料で利用できるだけでも学校にとって大きなメリットです。

図1 クラブの形態別内訳

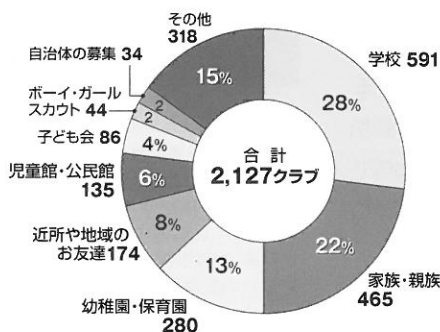
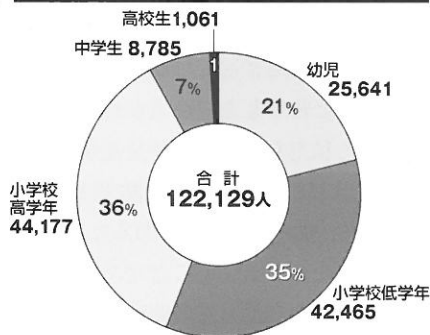


図2 学年別内訳





●環境学習・環境活動を楽しく継続

1年間に5回以上活動し、全国事務局に申請すると「アースレンジャー認定証」をお送りします。アースレンジャー認定証を子どもたちの意欲につなげているサポーターの方も少なくありません。また、クラブの登録を3年間継続すると「銀バッジ」、6年間継続すると「金バッジ」がもらえます。小さな子どもたちにとって金や銀のバッジをつけているお兄さんやお姉さんはエコ活動のエキスパート。あこがれの人です。3年以上の継続は難しいと思われるかもしれませんが、活動の内容や頻度はそれぞれのクラブがメンバーの関心や地域の状況に応じて決められるので、無理なく楽しく続けているクラブがたくさんあります。

こどもエコクラブ全国事務局が登録の継続を重視するのは、子どもたちの年齢や発達段階に応じて、気づきや学びを深め、活動を広げることが大事だと考えるからです。自分たちの活動をふりかえりながら学びをステップアップすること。それがこどもエコクラブの大きな特徴です。

●交流とステップアップ

こどもエコクラブ全国事務局が提供する交流やステップアップの仕組みを生活科や総合的な学習の時間に活かしている学校があります。

愛知県安城市立梨の里小学校では4年生の児童全員がこどもエコクラブに登録し、総合的な学習の時間を使って校区を流れる吹戸川とその周辺の自然環境を調査し、生きものや水の汚れ、ごみなどを考える活動を行っています。活動の内容をこどもエコクラブのホームページの「活動レポート」に投稿し多くの人に見てもらえることが、子どもたちの活動の励みとなっています。全国事務局では、投稿された活動レポートに対して環境活動の専門家による助言を返します。助言が次の活動のヒントになることに加えて、専門家から認められることによって子どもたちのやる気を引き出すのです。活動フォトコンテ

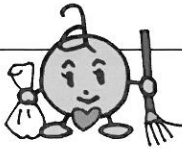


上田エコクラブの野鳥観察

ストなど各種顕彰制度を活用し、子どもたちの活動の意欲を高めることもできます。

新潟県南魚沼市の上田エコクラブは市立上田小学校全校児童が登録するクラブです。生活科・総合学習、学校行事、地域行事のうち環境教育と関わるものをこどもエコクラブ活動に位置づけています。学習のときは「メンバーズバッジ」を付けて意識付けを図っているそうです。自然環境に恵まれた土地柄から自然観察や飼育栽培などの活動が多く、特に野鳥観察については意欲的に取り組んでいます。ごみの分別、空き缶回収、校地の美化、紙の再利用、節電などの活動は既に定着しているとのこと。活発な活動を続けている上田小学校にとって、平成27年度はとてもうれしいことがありました。こどもエコクラブ全国事務局が主催する「壁新聞コンクール」に応募した作品が新潟県代表に選出されたのです。

各クラブが1年間の活動をふりかえるとともに、活動を多くの人に伝え、環境活動の輪を広げるためのツールが壁新聞です。全国事務局では、壁新聞を作成するクラブを増やし、活動をステップアップするため、毎年「壁新聞コンクール」を実施し、都道府県代表クラブを選出しています。新潟県代表クラブに選出された上田小学校の児童は、3月に東京で開催した「こどもエコクラブ全国フェスティバル2016」で活動の発表や他の都道府県代表クラブとの交流を行いました。他のクラブの活動紹介や壁新聞



梨の里小学校「吹戸川の生き物さがし」



「梨っこクリーン大作戦」

を見て、アイデアをもらったり、目標をたてたりできる良い機会になったとのことでした。

熱心な地方自治体では、独自にこどもエコクラブの地域交流会を開催している場合もあります。こどもエコクラブに登録すれば、メールやウェブサイトを使ってそのような情報も入手できます。

●こどもエコクラブとESD

前述した2つの小学校に共通しているのは、地域と関わることによって活動を活発にしていることです。

平成28年2月、梨の里小学校では4年生が呼びかけて第2回目となる「梨っこクリーン大作戦」を行いました。全校の児童、保護者、市内でボランティア活動をしている人たちが参加し、実施にあたっては市の清掃事務所と明治用水土地改良区からごみ拾いの道具をご提供いただきました。ポイ捨てや散乱ごみの問題は、学校だけでは解決しません。児童たちがクリーンアップを行っても、毎年同じようにごみが散らかっていたら無力感を感じ、問題解決のための手段というよりも、ごみ拾いの活動自体が自己目的化してしまうかもしれません。けれど、保護者の方をはじめとして大人たちが問題を一緒に考え、活動をしてくれたら少しずつ地域全体が変わっていくはずですよ。先に述べた上田小学校でもクリーン

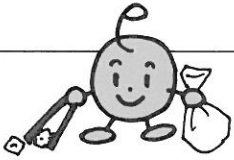
アップ活動をしており、学校の周りでは道路や公園のごみがほとんど無くなったそうです。

こどもエコクラブは、地方自治体に地域事務局を担っていただくなど、地域のいろいろな組織が協力しやすい組織運営形態をとっています。教育の場を「学校教育・社会教育・家庭教育」の3つに区別することが一般的ですが、学校で学んだことを家庭や地域社会で活かし・強化することによって子どもたちは学びを深めます。保護者や地域の行政機関、NPOなどに所属する人たちは、子どもを指導し、共に活動することによって自らも学びます。こどもエコクラブは学校・家庭・地域の垣根を越えて、互いに学び合い・育ち合う関係づくりを目指しているのです。

このように、学校での学びを家庭や地域の問題と結びつけ、他者とコミュニケーションを深め、連携を築きながら自ら解決のために行動する能力・態度を育む教育活動は、ESD（持続可能な開発のための教育）の中で重要視されている要素であり、こどもエコクラブはスタートの時点からESDを内包していたと言えます。

●こどもエコクラブとアクティブラーニング

ごみの問題一つとっても子どもたちの活動がすぐに成果に結びつくわけではありません。うまくいか



こどもエコクラブを生活科・総合的な学習の時間のスパイスに

ないことも多いはずです。子どもたちは、うまくできなかったことを糧として「どうしたらうまくできるようになるか」と考え、成長します。

群馬県が主催したこどもエコクラブの地域交流会に参加させていただいたことがあります。県内のこどもエコクラブの子どもたちが集まり、日頃の活動の成果をスライドや演劇、壁新聞などを用いて発表します。休憩時間に小学校4年生の児童に話を聞くことができました。こどもエコクラブ活動を2年間続けているそうです。「来年もこどもエコクラブを続けてくれるかな?」と質問すると「来年も続けて銀バッジをもらおう!」と元気に答えてくれました。けれど、バッジが欲しいだけで続けようとしているわけではありません。「来年は何をするの?」「今年、ポイ捨てをしないように近所にポスターを貼ったり、学校で呼びかけたりしたけど、クラスの中にまだポイ捨てをする子がいるから、来年は止めさせたい」と言います。壁新聞を作ることによって「この年にどのような活動をしたか」、「どのような成果があったか」、「どのような課題が残されていて、次に何をすべきか」を、はっきりと自覚しているのです。

このように、子どもの主体性を引き出しながら、能動的に学びを深め・広げていく学習方法は「アクティブラーニング」そのものです。教員などサポーターに提供される『こどもエコクラブ応援マニュアル』には「クラブの活動は、子どもたちの興味、関心、欲求から生まれて欲しい」、「クラブの活動は、子どもたち自身の創意・工夫で作りに上げて欲しい」、「クラブの活動は、結果も大切だけど、それまでの過程を大切にしてほしい」という「3つの心得」が記してあります。また、活動とふりかえりをくり返しながらステップアップする学びの過程の作り方を紹介したページもあります。マニュアルを参考に、壁新聞などのツールを用いて生活科や総合的な学習の時間に取り組むことによって、自ずとアクティブラーニングが生まれるのです。

●数居は低く・奥が深いこどもエコクラブ

こどもエコクラブを紹介すると、少なからず「こどもエコクラブは何をしているのかよくわからない」という反応が返ってきます。登録したクラブには「1年に1回くらいは活動レポートを投稿するか送ってください」とお願いしていますが義務ではなく、特別のことをしなければならぬわけではありません。

「何をしても良い」と言われるとかえって「何をやれば良いかわからない」というサポーターの方がいます。そんなときには、こどもエコクラブ全国事務局が提供する教材やツール、プログラムをヒントにしてください。『メンバー手帳』や『応援マニュアル』は活動内容を組み立てるときに良い助けになるでしょう。全国事務局は、活動のきっかけづくり、活動を楽しく継続し、交流とステップアップのサポートが最大の役割です。

活動をステップアップして行くと学校教育の枠組みを超えて、地域社会や家庭との境界が無くなります。こどもエコクラブの理想は、地域の中で自治体、学校、保護者、住民組織・市民活動団体、事業者などが幅広く連携して、子どもの環境学習・環境活動を支援する枠組みを作ることです。このような連携の枠組みが生まれたとき、ほんとうに「子どもと地域が学び合い・育ち合う」関係が生まれるのです。

これだけの文章でこどもエコクラブの全体像をご理解いただくのは難しいと思います。関心をおもいただけたなら、ぜひ「こどもエコクラブ」のホームページをご覧ください。活動報告のページには、本稿で紹介した小学校のクラブをはじめ、生活科や総合的な学習の時間のヒントになるような活動が必ずあるはずです。

こどもエコクラブ全国事務局
公益財団法人 日本環境協会
TEL : 03-5643-6251
<http://www.j-ecoclub.jp/>



こどもエコクラブのイメージキャラクター「エコまる」▲